

皆様の情報誌です。ぜひ、ご家庭にお持ち帰りください。http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp/



琉球大学医学部附属病院
副院長・第一外科長

西 卷 正

巻頭の挨拶

“がん”と告げられたら? 正しい知識で賢い患者になりましょう。

“がん”ですと医師から告げられたら、ほとんどの人が衝撃を受けてしばらく抑うつ状態になります。でも、「がん告知」イコール「死の宣告」でしょうか? 答えはNOです。にも拘わらず、「がん」と言われて怪しげな民間療法にすがったり、偏った解釈で書かれた書籍を鵜呑みにして治癒する機会を逸してしまう人達があります。確かに“がん”は深刻な病気です。ですが、治療法が飛躍的に進歩した現在、とても治り易くなった“がん”も少なくありません。例えば甲状腺がん、精巣がん、皮膚がんなどは約90%の患者が治癒します。その一方で、胆道がんや膵臓がんは依然として難治です。このように、“がん”の治り易さは種類により大きくばらつきますが、同じ“がん”でも進行段階によって大きな違いがあります。

その関係を示したのが図1です。早期の段階で“がん”が見つければ、簡単な治療でほとんどの患者が治ります。しかもかかる費用も少ない。ただ早期がんは診断が難しい。つまり、十分な経験と診断力を持った専門医でないと見逃されてしまうということです。

それでは進行がんの場合はどうか? 進行がんの診断は容易です。が、高度な技量を持つ専門医でないと治療は困難で、しかも早期がんと対照的に治り難い。さらには高額な費用がかかります。つまり、“がん”という病気の診断・治療には早期がんであれ、進行がんであれ、多くの専門医がそろっているがん専門病院が最適ということです。

現在、沖縄県には“がん”治療に特化した「がんセンター病院」はありません。しかし、琉大病院には高い診断能力を持つ病理医、内視鏡医、放射線診断医、そして“がん”治療の3大柱である手術(＋内視鏡治療)、薬物療法、放射線療法の専門医、さらには“がん”診療の専門的知識と技術をもつ看護師、薬剤師をはじめとする様々なコメディカルが多くいます。このような多職種がチームを組むことで初めて“がん”を治療することが可能になります。琉大病院は沖縄県における「がん診療連携拠点病院」なのです。

“がん”治療の鍵は早期発見・早期治療と言っても過言ではありません。まず検診を必ず受けること、早期がんの発見はここから始まります。そして“がん”と診断されたら正しい情報を集めることです。今では患者向けに分かりやすく解説された治療ガイドラインが多くの癌関連学会から出され、インターネット等で簡単に入手できます。念のため、別の専門医に意見を求める「セカンドオピニオン」も普及しています。治療に伴う費用や就労の心配事があれば、琉大病院内の「がん相談支援センター」で話を聞くこともできます。最後は自己責任で治療法の選択を行って結構ですが、やはり“がん”治療専門医の意見は重要です。彼らは“がん”治療のプロだからです。

“がん”と告げられたら、正しい知識に基づいて正しく判断する賢い“がん”患者になりましょう。琉大病院はそのお手伝いをしています。

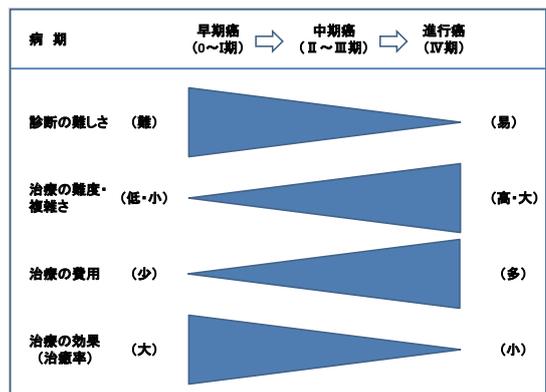


図1：“がん”の進行段階による医療の特徴



中西 浩一

小児科長
琉球大学 大学院 医学研究科
育成医学(小児科)講座 教授

皆様、初めまして、平成29年2月1日から育成医学(小児科)講座教授に就任しました中西浩一です。大阪出身で、平成元年に神戸大学を卒業し、すぐに神戸大学小児科に入局しました。米国留学の後、平成12年から和歌山県立医科大学小児科に赴任し、以降、和歌山で勤務していました。診療においては、腎炎、ネフローゼ症候群を中心とした小児腎疾患を専門としています。

琉球大学医学部附属病院小児科におきましては、腎疾患管理を強化するとともに、全ての小児科疾患分野に配慮し、患者さんとその家族のことを一番と考えて、丁寧な診療をしていきます。教育においては、これまでの大学教員としての様々な経験を活かして、対話を重視した医学教育を実践していきます。

研究においては、常にリサーチマインドを持って診療にあたり、そこから生じた問題や疑問を解決する研究を目指していきたくと思っています。

座右の銘は「随処作主(ずいしょにしゅとなる)」です。少し難しい言葉ですが、自分が所属する組織のために何が本当に必要なのか、何が本当に大事なのかをよく考えて、問題解決のために一生懸命努力することが重要だと理解しています。

沖縄県の小児医療ならびに琉球大学のさらなる発展のため医局員と力を合わせ精一杯頑張っていきますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。

紹介

肝疾患連携拠点病院の取り組みについて

肝疾患診療相談室

第一内科 特命講師 前城 達次
肝炎コーディネーター 仲松 愛美

琉球大学医学部附属病院は、平成21年度より肝疾患診療連携拠点病院の指定を受け、沖縄県の肝疾患診療ネットワークにおいて中心的な役割を担っています。肝疾患診療連携拠点病院の主な働きとして、「患者さんおよびそのご家族へ、肝臓病に関する医療情報・知識を提供する」ことがあげられます。そのため、みなさんに肝臓病をより深く理解していただき、前向きに治療に取り組み、ふだんの生活で病気と上手につきあっていくためのアドバイスをやるよう肝臓病教室を開催いたしております。

肝臓病教室では、B型・C型肝炎・肝硬変、肝がんに加え、今後増加が心配される生活習慣病としての肝臓病である脂肪肝や、沖縄県民に多いアルコール性肝疾患について、医師・看護師・薬剤師・栄養士等の講義を予定しています。

治療法をはじめ、日々の食事や服薬、日常生活の過ごし方などについて、肝臓病教室でいっしょに学びませんか? 同じ肝臓病で治療を続けている患者さん・ご家族の交流の場としても活用できます。

肝臓病教室がみなさんの肝臓を守る手助けとなることを目指しています。多くの方のご参加をお待ちしております。

詳しくは肝疾患診療相談室098-895-1144または10階東病棟へお問い合わせください。



平成29年度 肝臓病教室

場所: 10階西病棟 カンファレンスルーム

時間: 午後2時半~4時

日時	テーマ	講師
平成29年 4月28日 (金)	脂肪肝と肝硬変 ~食べすぎ・飲みすぎが招く、肝は之がい脂肪肝~	医師 栄養士
平成29年 7月未定 (金)	C型肝炎と肝硬変 ~飲み薬だけで治療を目指す時代へ~	医師 薬剤師
平成29年 10月20日 (金)	B型肝炎と肝硬変 ~あなたに合った治療法で、進行をくい止めろ!~	医師 看護師
平成30年 1月26日 (金)	みんなで話そう肝移植 ~移植前から移植後まで、不登を解決!~	医師 看護師 薬剤師

お問い合わせ・申し込みは
琉球大学医学部附属病院
TEL:098-895-3331
10階東病棟まで!
(担当看護師 仲松)



平成29年2月よりダヴィンチ前立腺手術（ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術）が始まりました！

腎泌尿器外科 科長 斎藤 誠一

琉球大学医学部附属病院では平成29年2月にダヴィンチ手術（ロボット支援下前立腺全摘除術）を開始しましたので、ダヴィンチ手術について説明いたします。

A. 手術の安全性への貢献

手術を実施するにあたって安全性の確保は最優先課題です。ダヴィンチはそれに対する貢献度が非常に大きいと思います。理由は以下の通りです。

- 1) 視野：10倍の3次元拡大視野のため解剖学的構造が詳細に分かり、細かい血管の1本1本までがよく見えます。よく見えることは、手術の安全性を確保する大切な要因となります。
- 2) 操作性：従来の開放手術では手術器具の入射部位・角度の制約があるため、深く狭い骨盤底での手術では操作性に関する制約が大きいのに比べて、ダヴィンチでは狭い空間での操作性に優れ、制約が非常に少ないです。また、手ぶれを防止できる機能と合わせて、狭い骨盤の奥にある前立腺の摘出術において正確で繊細な手術を行うことができます。
- 3) 出血が少ない：従来の開放前立腺全摘術では、平均的な術者であれば、出血量が1000 - 2000mL前後でした。一般的にダヴィンチ手術は腹腔鏡下で行うため出血量が少ないと報告されていますが、今回経験したダヴィンチ手術の出血量も100mLと非常に少なかったです。

以上、ダヴィンチ手術は良好な視野、優れた操作性、少ない出血量を兼ね備えているため、手術の安全性に大きく寄与すると考えられます。

B. 機能温存（QOL）における優位性

機能温存：繊細な手術が行えるため、海綿体神経温存や尿道括約筋の機能温存に優れることが論文で報告されていますが、今回の手術でも尿道膀胱吻合を繊細に行うことができ、尿道カテーテル抜去直後の尿失禁が非常に少なかったことには大変感動しました。

C. 低侵襲（患者さんの体への負担をできる限り軽減して行う治療のこと）

手術翌日の患者さんの顔つきが大変穏やかでした。腹腔鏡手術一般に通じるものですが、ダヴィンチ手術も患者さんに大変優しい手術と感じられました。

以上のことから、前立腺癌に対するダヴィンチ手術は安全で低侵襲でQOLに優れた治療法としてお勧めしたいと思います。当院では他にも放射線療法（密封小線源療法、IMRT《強度変調放射線治療》、外照射療法）、ホルモン療法と、重粒子線を除くすべての治療法に対応できます。

前立腺癌の患者さんにおかれましては、ぜひ琉球大学医学部附属病院に相談にきてください。

問合せ先：腎泌尿器外科外来 月、火、金（担当：呉屋、斎藤）まで。



© Intuitive Surgical, Inc.

人間の高次の精神活動を支えている脳という臓器の表面には沢山の皺しわがありますが、この部分は多数の神経細胞が集まっていて、その活動状態に応じて酸素の消費、血流量が刻々と変化しています。脳の中でも特に額の辺りに位置する前頭葉と呼ばれる領域は思考、感情や意欲といった精神活動に関連する大事な領域ですが、うつ病などの精神的な疾患では働きが低下すると考えられています。

光トポグラフィーは近赤外線という生体への透過性が高く頭蓋骨を通り抜けることができる特殊な光を頭皮から脳に照射することで、部位ごとの脳表での酸素の消費状況の変化（＝脳活動）を調べる検査です。

従来うつ病診療では、診断、治療に際して、患者・家族や医師の主観がどうしても混在しがちな問診による情報に頼らざるを得ない面が大きく、直接、脳の活動状態を評価して診療へとつなげられる客観的な検査、指標が乏しい状況にありましたが、平成21年4月から先進医療として「光トポグラフィーを用いたうつ症状の鑑別診断補助」が認可され注目されました。平成26年4月からは保険適用となり、より身近な検査となっています。実際の検査では、例えば「か」で始まる名詞を可能な限り沢山言って下さい」といった課題を行っている際の脳血流の変化を調べます。

気分の落ち込みや無気力といった「うつ」の状態は、一時的には、誰でも経験し得るもので、治療を必要とするまでには至らないことも多いと考えられますが、中には経過が長引き、治療を受けても改善が乏しい場合も散見されます。その様な際には、診断や治療を今一度、見直してみることも一つの方策となります。

双極性障害（躁うつ病）や統合失調症でもうつ病と類似の症状を示すことがありますが、治療法は異なっており、疾患に応じた治療薬の選択が症状改善のためには重要となります。光トポグラフィー検査はこれらの疾患とうつ病の鑑別診断に補助的な情報を提供し得ると考えられていますが、同検査の実施が可能な施設は今のところ、県内では琉球大学医学部附属病院だけとなっています。

問い合わせは診療情報提供書を本院医療福祉支援センター（シエント）まで。
電話 098(895)-1371、 FAX 098(895)-1498



琉大病院と徳明会が協定締結 災害発生時における緊急支援物資を提供

総務課

琉球大学医学部附属病院では、一般財団法人徳明会との間で、災害時の協力等に関する協定を去る平成28年11月8日に締結しました。

沖縄県は、災害用物資の輸送が「航空便」か「船便」のみで、陸路での援助が見込めない状況であり、地震・風水害等の災害が発生した場合に、物資を速やかに確保する必要があることから、琉大病院に対する物資提供を目的として、徳明会との間で災害時の協力等に関する協定を締結しました。

この協定締結により、琉大病院が被災した場合でも、患者、教職員及び外来者等に対し、食料、飲料及び紙オムツ等の日用品を速やかに提供できることから、災害発生時における医療活動がより迅速かつ確実に遂行でき、いっそうの地域社会への貢献が期待されます。



左から比嘉徳明会常務理事、平良徳明会理事長、藤田病院長、熊谷医学部事務部長、金城医学部総務課長

トピックス2 九州・沖縄ブロックDMAT技能維持研修

救急部 特命講師 玉城 佑一郎

去る平成29年2月4・5日、宮崎大学医学部清武キャンパスにて九州・沖縄ブロックDMAT技能維持研修が行われ、沖縄県から琉球大学医学部附属病院、県立北部病院、県立中部病院、県立南部医療センター・こども医療センター、南部徳洲会病院が参加し、本院からDMAT隊員の大内元、玉城佑一郎、金城沙知、佐久川卓が参加しました。

DMAT（Disaster Medical Assistance Team）とは、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期（おおむね48時間以内）に活動できる機動性を備えた医療チーム（医師、看護師、業務調整員から構成）です。DMAT隊員資格の有効期限は5年で、資格を継続する場合は、「DMAT技能維持研修」を2回以上受講する必要があります。

研修では、発災後に自院の様々な資源を把握した上で、自院の医療従事者や各医療機関と連携を図り、どのように機能させていくかを仮想災害でリーダーとして行い、実際の災害時には、混乱した院内で災害医療訓練を受けた事がない医療従事者と連携して、予想しない事例にも臨機応変に対応する必要があります。

今回の研修に参加することにより、災害医療が進化している事に気付かされ、知識や技能を再構築したうえで、不安材料を解消し、自信へと繋げていくことができ、技能向上に繋がりました。

研修への参加には、関係部署の同僚への業務負担を強いることもありますが、研修参加に際し、協力いただいた院内の関係各部署の医療従事者へ感謝の意を込めて報告させていただきます。



平成29年2月4日ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社、沖縄県立病院と本院、おきなわクリニカルシミュレーションセンターの共催で、ブラック・ジャック セミナーを開催しました。

このセミナーは、沖縄県内の中学生を対象として、普段見ることができない外科医の仕事について体験してもらい、医療に関する仕事に関心を持って頂き、多くの子ども達が医療を支える人材になることを目的に、平成27年から開催しており、今年で3回目になります。

今年は29名の参加者が6つの体験ブースを巡回して本院と県立病院の先生の指導を受けました。手術の麻酔の時などに気管に管を挿入する気道管理、超音波メスでの切開、切った傷を縫う縫合、腹腔鏡手術トレーナー、骨折治療、自動吻合器などを体験しました。

今年初めての実施となる骨折治療体験では、整形外科の医師が見守る中、割れた骨の模型をドリルと釘を使って接合する慣れない作業に皆さん熱中していました。

(おきなわクリニカルシミュレーションセンターは、沖縄県の支援を受けて医学部構内に設置された医療教育施設で、医療現場を再現した環境で訓練を行うことで、より安全で高度な医療を提供することを目的としています。一般向けの体験イベントも開催しております。)



お知らせ

口腔ケアセンターでは周術期口腔機能管理による 口腔ケアでお口の中を綺麗にしています！

歯科口腔外科 歯科衛生士

知花ゆきこ 長浜妙子 比嘉くらら 玉那覇星

最近、がんや心臓血管疾患、臓器移植術患者さんの術後感染や放射線・化学療法による副作用が口腔ケアによって予防、軽減されることが知られてきました。さらに、高齢者の誤嚥性肺炎は口腔ケアによって減少し、全身の健康維持に役立つことが認識され、ますます口腔ケアの重要性が高まっています。

琉大病院歯科口腔外科では、口唇口蓋裂、悪性腫瘍、顎変形症など口腔顎顔面疾患の専門的治療や智歯抜歯などの外科治療を行うとともに、「口腔ケアセンター」では口腔ケアによる周術期の患者さんの口腔機能管理を行っています。

現在、「口腔ケアセンター」では歯科医師とともに歯科衛生士4名が上記疾患の入院ならびに外来患者さんの口腔清掃、口腔衛生指導を行い、平成28年は335名の新患患者さんに口腔ケアを実施しました。さらに、歯科衛生士は琉大病院内全病棟を定期的に回診して入院中の患者さんの治療前に口腔内診査を実施し、手術や治療に影響のある齲蝕や歯周炎などがある場合は歯石除去などの機械的歯面清掃、口腔衛生指導などを行い、周術期の合併症の軽減や口内炎の予防などの効果が得られています。術後は、入院期間中は継続して口腔ケアを行い、退院後は歯科口腔外科外来あるいは、一般開業歯科医院に紹介して継続的な口腔機能管理を実施するようにしています。

平成27年からは琉大病院の口腔ケア技術の向上と普及を目的とした口腔ケアリンクナース育成プログラムを8階西病棟濱川恵理子副看護師長とともに開始し、現時点で口腔ケアリンクナース43名が認定されて各病棟で活躍しています。

「口腔ケアセンター」では、今後も口腔ケアによって手術や放射線・化学療法などを行う患者さんが良好な手術ならびに治療経過を過ごすことができるようにご支援したいと考えております。今後ともよろしくお願い致します。



※曜日枠に赤まる●が付いた曜日が外来診療日となります。外来の際にご確認ください。
 ※診療受付時間は午前8時30分から午前11時まで、診療開始時間は午前9時です。予約がある場合は、その限りではありません。 平成29年4月1日現在

外来診療日割表

診療科	専門外来	月	火	水	木	金	備考
第一内科	感染症内科	●	●		●	●	新患は要紹介状
	呼吸器内科	●	●		●	●	新患は要紹介状 肺腫瘍：火・金曜日
	消化器内科(消化管)	●	●		●	●	新患は要紹介状 糞線虫外来：木曜日
	“(肝臓)”	※	●		●	●	新患は要紹介状、要予約(医療機関からの申込みに限る) 院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約 ※月曜日午後：B型肝炎訴訟診療(要予約) 新患は要紹介状、要予約(医療機関からの申込みに限る) (院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約)
第二内科	“(胆道・膵臓)”	●					新患は要紹介状、院外は要予約(医療機関からの申込みに限る) (院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約)
	血液内科(骨髄移植外来)		●	●		●	
	成人T細胞白血病リンパ腫(ATL)外来		●				
	肥満症(生活習慣病)		●	●		●	
	糖尿病・代謝内科	●	●	●		●	糖尿病外来は専用フォーム有 (月曜日は、院内入院糖尿病患者の紹介のみ)
	内分泌内科		●	●		●	
第三内科	膠原病・リウマチ内科		●	●		●	※膠原病・リウマチ内科は専門医の確保が出来るまで休診(再来のみ可)
	骨粗鬆症・男性更年期(LOH)		●	●		●	
	女性医師による女性外来	●	●	●		●	
循環器科	神経内外科	●	●		●	●	新患は要紹介状、要予約(医療機関からの申込みに限る) (院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約)
	高血圧・腎臓内科	●	●	●	●	●	
第一外科	高年齢内科			●	●		
	循環器内科	●		●	●	●	新患は要紹介状、要予約(医療機関からの申込みに限る) (院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約)
	上部消化管外科	●		●		●	新患は要紹介状、要予約(医療機関からの申込みに限る) (院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約)
	下部消化管外科	●		●		●	
第二外科	肝胆膵外科	●		●		●	
	乳腺・甲状腺外科	●		●		●	
心臓血管外科	小児外科	●		●			小児外科は午後のみ
	呼吸器外科		●		●		新患は要紹介状 呼吸器外科：院内紹介は事前に電話相談
	心臓血管外科		●			●	
脳神経外科	ステント外来		●			●	血管外科：原則要予約(医療福祉支援センター・内線1371で予約) 木曜日：原則院内紹介のみ(主にDVT、静脈瘤)
	血管外科		●			●	
	一般・腫瘍瘍害	●		●		●	新患は要紹介状、要予約(医療機関からの申込みに限る) 他院・他科からの紹介・予約患者は10時~11時に受付 院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約、院内からの紹介は脳外科外来受付(月・水・金)内線1307で予約 緊急を要する患者は医局1171または病棟3801へ連絡し当日の当直医(担当医)が対応します。
整形外科	脳血管障害	●		●		●	
	新患・再来	●		●		●	
	手の外科	●		●		●	新患は要紹介状、要予約(医療機関からの申込みに限る) (院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約)
	リウマチ	●		●		●	
	骨・軟部腫瘍	●		●		●	側弯症外来：金曜日
形成外科	脊椎・脊髄	●		●		●	
	股関節	●		●		●	
産科婦人科	スポーツ医学(膝)	●		●		●	
	骨粗鬆症	●		●		●	※小児整形：第2、4金曜日は休診 ※乳児股関節の精密検査は要予約 整形外来内線1301で予約
小児科	小児整形	●		●		●	
	新患・一般再来		●		●		新患は要紹介状 眼瞼下垂は、火曜日、リンパ浮腫は、木曜日
	新患	●		●		●	紹介状有りが望ましいが、科の特殊性として紹介状なしでも診察します 火曜日・木曜日：予約再来のみ
	産科婦人科	●		●		●	
皮膚科	新患	●		●		●	新患は要紹介状
	腎臓	●		●		●	小児循環器専門医は不在
	内分泌	●		●		●	
腎泌尿器外科	遺伝・先天代謝異常	●		●		●	
	神経	●		●		●	
	新生児	●		●		●	
	血液(移植外来)	●		●		●	
耳鼻咽喉科	膠原病	●		●		●	新患は要紹介状
	皮膚科	●		●		●	
	皮膚外科	●		●		●	
眼科	強皮症・皮膚筋炎	●		●		●	
	腎泌尿器外科	●		●		●	新患は要紹介状、要予約(医療機関からの申込みに限る) (院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約)
	再泌尿器外科	●		●		●	小児泌尿器外来は、月曜日午後(予約再来のみ) 腎移植外来：午前は再来のみ、新患は午後
	小児泌尿器外科	●		●		●	
耳鼻咽喉科	腎移植外来(午前新患)	●		●		●	
	新患	●		●		●	新患は要紹介状 院内紹介は、電子カルテ上の紹介枠での予約必要
	甲状腺・頭頸部腫瘍	●		●		●	
	耳鼻咽喉科	●		●		●	
	鼻副鼻腔・アレルギー	●		●		●	
	中耳炎・難聴・めまい・顔面神経	●		●		●	
	人工内耳	●		●		●	
眼科	小児難聴・補聴器	●		●		●	
	口腔咽喉頭・唾液腺・音声・嚥下	●		●		●	
	頸部エコー外来	●		●		●	
眼科	アレルギー免疫治療外来	●		●		●	アレルギー免疫治療外来：予約再来のみ
	緑内障	●		●		●	月曜日は外来者の新患及び再来予約のみ
	小児眼科	●		●		●	
眼科	網膜硝子体	●		●		●	
	角膜	●		●		●	
眼科	神経・腫瘍・ぶどう膜炎	●		●		●	月曜日の神経、腫瘍は午後の再来のみ
	一般	●		●		●	

※曜日枠に赤まる●が付いた曜日が外来診療日となります。外来の際にご確認ください。
 ※診療受付時間は午前8時30分から午前11時まで、診療開始時間は午前9時です。予約がある場合は、その限りではありません。 平成29年4月1日現在

診療科	専門外来	月	火	水	木	金	備 考
精神科神経科	新患		●		●	●	新患は予約制
	一般再来		●		●	●	院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約(医療機関からの申込みに限る)
	児童・思春期外来	●					院内他科通院中の方は当科外来受付・内線1306で予約 ※紹介状も必要です。
	光トポグラフィ外来	●	●		●	●	「光トポグラフィ外来」の予約、申込みは紹介元医療機関から医療福祉支援センター Fax (098-895-1498) にて
認知症疾患医療センター	もの忘れ診断外来		●			●	新患は要紹介状 原則予約制。予約は認知症疾患医療センター：895-1765
放射線科	放射線診断・IVR			●		●	新患は要紹介状
	CTガイド下・PVP			●			月曜日は緩和治療中心。要事前連絡、院内紹介のみ (連絡先：①4255 ②4865 ③4862)
	甲状腺・RI			●			完全予約制 新患は要紹介状、要予約(医療機関からの申込みに限る)
	放射線治療	●	●	●	●	●	院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約 重粒子線治療相談外来は水曜日のみ
麻酔科	麻酔科	●	●	●	●	●	
	ペインクリニック	●	●	●	●	●	
歯科口腔外科	新患・一般外来	●	●	●	●	●	新患は要紹介状
	口唇・口蓋裂	●					新患・一般外来：月～金曜日(水曜日を除く) ※平成29年6月より 水曜日と金曜日が入れ替えになります。
	顎変形症	●					
	腫瘍		●				
	顎関節症				●		
	外傷				●		
口腔ケアセンター	●	●		●	●		
リハビリテーション部	リハビリテーション科	●	●	●	●	●	リハ新患は、月、火、水、木曜日(月、金は検査優先) リハ対象者は、入院患者のみ。以外は電話で要相談。 小児痙攣治療外来：第3金曜日の午後(院内紹介のみ)
	心大血管リハ	●	●	●	●	●	心大血管リハ新患は、月、火、水、木、金
高気圧治療部	高気圧治療部	●	●	●	●	●	新患は要紹介状 新患は午前11:00まで、救急は要連絡
血液浄化療法部	血液浄化療法部	●	●	●	●	●	土曜日 通常体制 夜間・日曜・祝日はオンコール体制
地域医療部	地域医療部	●	●	●	●	●	※新患は原則要紹介状(院内紹介は文書入力にて紹介状記載)
総合診療センター	総合診療科部門	●	●	●	●	●	総合診療科部門は午前のみ ※外来患者のみ ※新患は原則要紹介状
	禁煙外来		●	●	●	●	火・水・金曜日の午前中・予約制 ※当院通院中の外来患者のみ
	漢方外来					●	第3金曜日の午後のみ ※事前予約が望ましい
がんセンター	緩和ケア外来(身体的緩和部門)	●	●	●	●	●	火・金曜日の午後のみ(インフルエンザワクチンを除く) 予約制。予約は総合診療センター・内線1310で予約(予約受付時間：月～金曜日の14時～16時まで)
	〃(精神的緩和部門)					●	新患は要紹介状(火・木曜日は予約制)
	がん看護外来	●	●	●	●	●	月・火・木・金曜日(12:00~16:00) 水曜日(12:00~14:00) ※事前予約が望ましい(内線1311)で予約
救急部	救急部						24時間診療

本院の理念及び基本方針

理 念

病める人の立場に立った、質の高い医療を提供するとともに、国際性豊かな医療人を育成する。

基本方針

1. 生命の尊厳を重んじた全人的医療の実践
2. 地域における保健・医療・福祉の向上に対する貢献と関係機関との連携
3. 先端医療技術の開発・応用・評価
4. 国際性豊かな医療人の育成

患者さんの権利と責務について

琉球大学医学部附属病院では、患者さんを中心とした「安全・安心・思いやり」に基づくより良い医療を目指しております。患者さんとの深い信頼関係の上に成り立つ医療の大切さを十分に理解するとともに、患者さんには一人一人に次のような権利と責務があることを確認いたします。

●患者さんの権利●

1. あなたは、どんな場合でも、一人の人間として大切に扱われる権利があります。
2. あなたは、どのような境遇、環境であっても、専門家による平等で良質な医療を受ける権利があります。
3. あなたは、病気のことや治療について十分に教えてもらう権利があります。
4. あなたは、治療について意見を述べる権利と選択できる権利があります。
5. あなたは、あなた自身の話したこと、病気、身体について、知られたいくないことを守られる権利があります。

●患者さんの責務●

1. 最善かつ適切な診療を行なうために、あなた自身の健康状態についてできるだけ正確に伝えてください。
 2. 主治医や担当医の治療や退院計画に主体的に取組み協力してください。
 3. すべての患者さんが適切な医療を受けられるように、病院の規則に従い、医療の妨げとならないように協力してください。特に攻撃的な態度や暴言、乱暴な行為は謹み、施設の所有物を大切に使うようにしてください。
- 平成22年8月制定 平成29年2月21日一部改正



本院までの交通機関

- 那覇バス
所要時間：那覇バスターミナルより本院まで約50分
- 97番 琉大線
経路：那覇バスターミナル～牧志～儀保～琉大病院前～長田～中部商業高校前～琉大北口
タクシー・乗用車で所要時間
●那覇市街より約25分 ●沖縄市街より約20分
●那覇空港より約35分 ●モノレール首里駅から10分
※モノレール儀保駅からバス(97番)で30分

附属病院
ホームページが
携帯サイトからも
閲覧できます。



ボランティア募集

本院では、一般の方からの病院ボランティア(外来ロビーでの案内・補助等)を広く募集しております。空いている時間を利用して、一緒に参加してみませんか？
まずはお気軽にご連絡ください。
【連絡先】総務課 (098-895-3331 (内線：1006)

琉球大学医学部附属病院
http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp/

電話(098)895-3331(代表)
医療福祉支援センター(内線1371)
〒903-0215 沖縄県西原町字上原207番地